

ひたしギョース アソブラス 後編

成人向

Bloody Okojo presents Vol.10

ひたぎアクトレス 後編



前編の
あらすじ



嫌いよ

突然キレられた
僕はワケもわからずに



今は阿良々木くんの
顔はおろか

影も見たくないの

靴もく
れなかつた

下半身むき出しのまま放り出され忍に助けを求めた



お前は理由を
知っているのか



訳知り顔の
忍の提案に
うっかり
すがって
しまった所



廃墟に連れ込まれーの

拘束されーの

目隠しされーの



安心せい

捕って食おう

ちゅーちゅーされーの

血を吸われーの

いじゃない
忍の舌が、息が甘いんだ

僕も忍のを吸いーの



忍の血だ

僕は忍の血を



戰場ヶ原は
お前が大人に戻れる
ことなんて知らないだろ

戰場ヶ原が忍の存在に気付いた事を知らされる



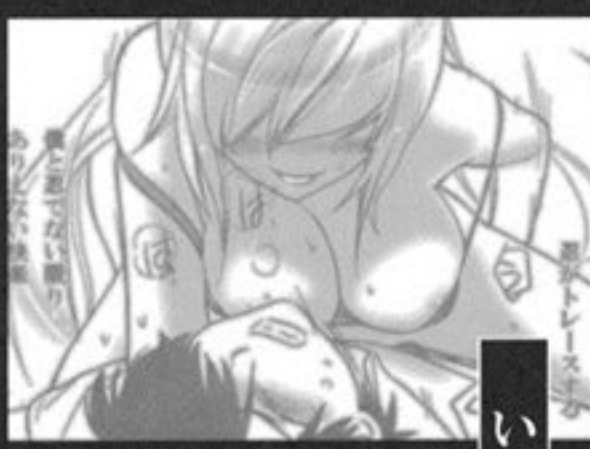
お前は
どこまで僕の事を
ツンデレ娘に
話しておるのじゃ?

あ……れ?



話して……
ない

それはなににさすの



いろいろされた挙句



待てっ!



あれやこれや



なんだこれ?

僕が見たものは

私
寝るところ
なんだけど



ならば
いかなるときも
お前様が
僕の色香に
耐えられると

むちゃくちゃな忍の

証明するしか
あるまい

ぐちゃぐちゃな誘惑をなんとか乗り切り



ガハラさん宅を再び

訪れた僕が見たのは

ガキガキガキ



説得力
ねえよ

ひたぎヴァンプス - 後編 -

Story by 多角獣 Drawing by 芥川まんぼう

器物破損

及び

不法侵入

猥褻罪に

強姦未遂よ

阿良々木くん

後半二つに関しては
潔白を主張させて
もらおうぞ！

あら

強姦する気もないのに
人の家のドアをぶっ壊して
乱入してきたと言うの？

だったら
何の用なのかしら

私
阿良々木くんのこと
嫌いって
言ったはずだけれど

わかってる

だから……

だから？

いいこと？
身体を許したくらいで
惚れてるとか思わないことね

斬!!

それって
彼氏に言う
セリフじゃ
ないよな!

彼氏になつたくらいで
惚れてるとか
思わないことね

ええええええええ

死にてえ!!

勘違い野郎だった!

彼氏なめー
惚れやうせん!!

で
本当は
なんの用なの?

惚れ直させに
来た
か?

つてのは
嘘扱い
なんだ……



ん?!



あ

さっきから
気になってたコレ

……鉛筆だ

正確には
鉛筆だったもの……

……

何の儀式だよ

怪しすぎるんだよ
……って



あめ……そっか

……戦場ヶ原

お前に
話したいことが

違うな

話していないことが
あるんだ

お前も知ってる通り
僕は
完全に人間とは
言い難い

そうね
類人猿

それももう完璧に
人間じゃ
ないよね!?

早く人間に
なりたいのよね
この妖怪人間

結構近い!!

一時期は
確かに
そんなこと
思ってたな

なりたい
じゃなくて
戻りたい
だったけど

つまりだ

なにかしら?

妖怪人間もどきの
体質になった
原因の一端が

今現在
僕の影の中に
いるんだ

お前
見たんだよな?

阿良々木くんが
言っているのが

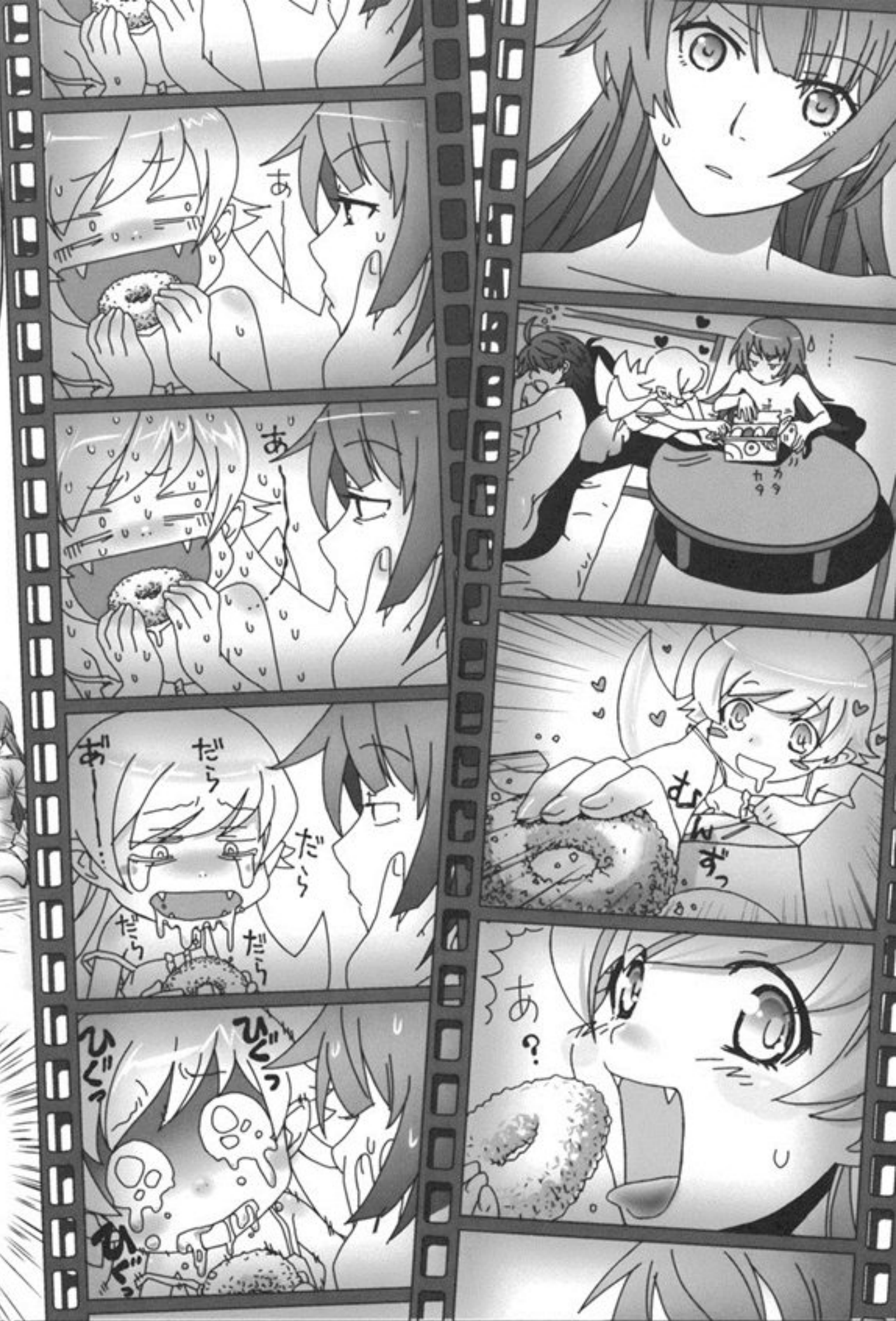
あなたの影から出て来て
……出てくるなり私の

——つていう
金髪ロリ少女の
ことだとしたら
見たわ

オイ!?



さっきお前から
聞いた話と
状況説明が
食い違いすぎ
じゃねえか!



春休みに
僕らは出会った



名前は忍野忍



おい忍!
返事しろよ!
……くそ
狸寝入り
決め込むつもり
だな……

間違いなく
そいつだ

全くの偶然に
出会い

どう始まって

そのせいで

なにが起こって

僕が首を突っ込んだ

僕が首を差し出した

誰ひとり
望んでいない
終局を迎えた

全員が不幸になった

いかに

終わったか





羽川は
ある程度知ってる

こいつ
変に勘がいいん
だよな

まあ
話すつもり
だったからいっしょに



知っている人は
いるのかしら？

当然私が知っている人の中で
……と言う意味でだけど



話さなくても



……



羽川さんは
関係者なのね

そうだ

最初から？

ほとんど
最初からだな

そう……

なんとなく
わかったわ

何がなんとなく
わかったんだろうか……



忍について
忍と僕の関係について
春休みの出来事に触れずには
話せない

だから——何も
話せない

僕の責任だから

一つ残らず
僕が背負う

死ぬまで
抱え続ける



いやよ

納得が
いかないわ

話して



——って私が言ったら

阿良々木くんはどうするの？



だよな
そう来るよな

僕は……
別の決断を
するつもりだ



それって
別れる
って言いたいのかしら？



忍には
馬鹿げているって
笑われたけど

……ああ

忍とは
僕が生きている限り続く
何があっても変える気はない



僕は話さないのでもなく
気づかないのでもなく

単純に逃げていた

戦場ヶ原と僕と忍
という関係に

だから
言っていないじゃない

忘れようとしていたのだ





……

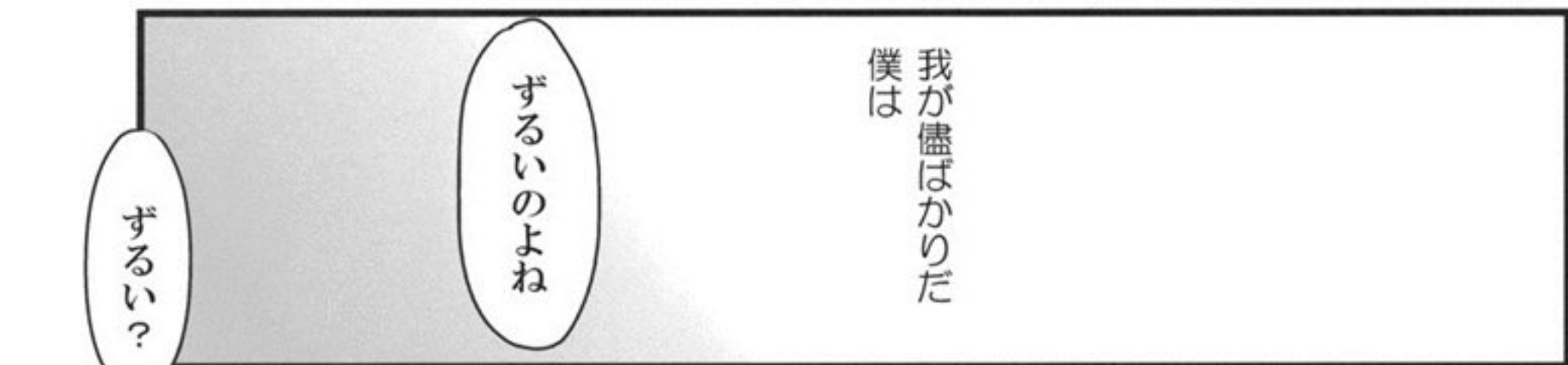
腹が立つよな
嫉妬するよな

当然だよ



でも僕は
話さない

そう
決めたんだ



我が儘ばかりだ
僕は

ずるいのよね

ずるい？



阿良々木くんは
誰でも助けるけれど
自分が助けられるのは
頑なに拒否するのよね

キッ

口をつぐんで
何もかも自分で
やろうとする

誰にも知られ
ないように



本当に
誰にも知られずに
できるなら
それもいいかも
知れないけれど

そんなの
阿良々木くん
できるとは
思えないし

できる必要も
無いんじゃないか
しらす

誤解しないでちょうだい

背負っているものを
下ろせるとは思っていないわ

中身を見たりもしない

それは
阿良々木くんの一部だし

それが
阿良々木くんなのだから

ただ知りたかった

阿良々木くんにとって
どんな意味を持っているのか
どれだけの重みがあるのか
——だけ
知りたかった

それだけ

ありがた迷惑

余計なお節介

大きなお世話

それでも
僕にかけられるのなら悪くはない——と
むしろ嬉しいと
あの時戦場ヶ原は言った

私の——我が儘よ





めっっちゃや
怖えええええ

めっっちゃ笑顔
めっっちゃ激奴心

ていうか
僕は別れ話をしに来た
わけでもないし？

別れたいとも
一言も言っていないし？

会話に「別れる」って
単語が出ただけで
しかもそれだって
言ったのは僕じゃなくて
ひたぎさんなんですけど



マズい!!
ドグ

この状況は
どうすれば
ひっくり返せる!?



あの柄って
僕のパンツ?

——とジーンズ……

胃め



とにかく
回収しといた

あつ



なにか

ないのかつ

!?



くちめ

!?



なんかえらく
扱いに差がある
みたいだが……

もしかして
僕が来る直前まで
してたってことか？

それで
あの慌てようか

パンツ履いでないから
おかしいなどは
思ったんだよ

ちなみに
イってないわ

訊いて
ねえよ！

お前……
どうしようもなく
ツンデレだな

僕の認識が甘かった

ここまで告白しておいて
顔一つ赤らめない女子って
戦場ヶ原を除いた人類で
いるのだろうか？

は？
なにを聞いて
いたのかしらこの男は

阿良々木くんには
惚れてないって言ってるでしょう

じゃあ僕のパンツで
なにやってんだ？

私が惚れているのは
阿良々木くんじゃなく
阿良々木くんのパンツよ

ぎっぱり

パンツ!?

そう
今の私は
阿良々木くんよりも
阿良々木くんのパンツに
男性的魅力を
感じているわ

人の形状すら
していない布切れに
負けた……いたと？



3枚 1000円

心が折れそうだ……



かわいいそうね阿良々木くん
嘘だと思いたいようだけど

駄目よ
これは現実なの

ちよつー!?

どう?
嘘じゃない
でしょう

う……わ
何この濡れ方

なんか……凄いなだけ

なにその顔?
さすがの変態性癖の
阿良々木くんでも
引いたかしら?

引かねえよ
引くわけ
ない

僕の彼女は

なら
もう一度

お前を

世界一可愛い

僕に惚れさせる

!!

あ

な……に？
そのお粗……末っ……な……
…手っ…き

も…しか…
して…

…愛撫

つもり……なの
…かし…ら？

パンツの
ほう……が…よっほど
上手だっ……た…わよ

いや
それパンツ
じゃなくて
自分の手
じゃん！

もう立ってるのも
限界になってきてる
くせに

可愛いなあ

高回愛の

—んっ！

パンツに
こねまじりまじり…



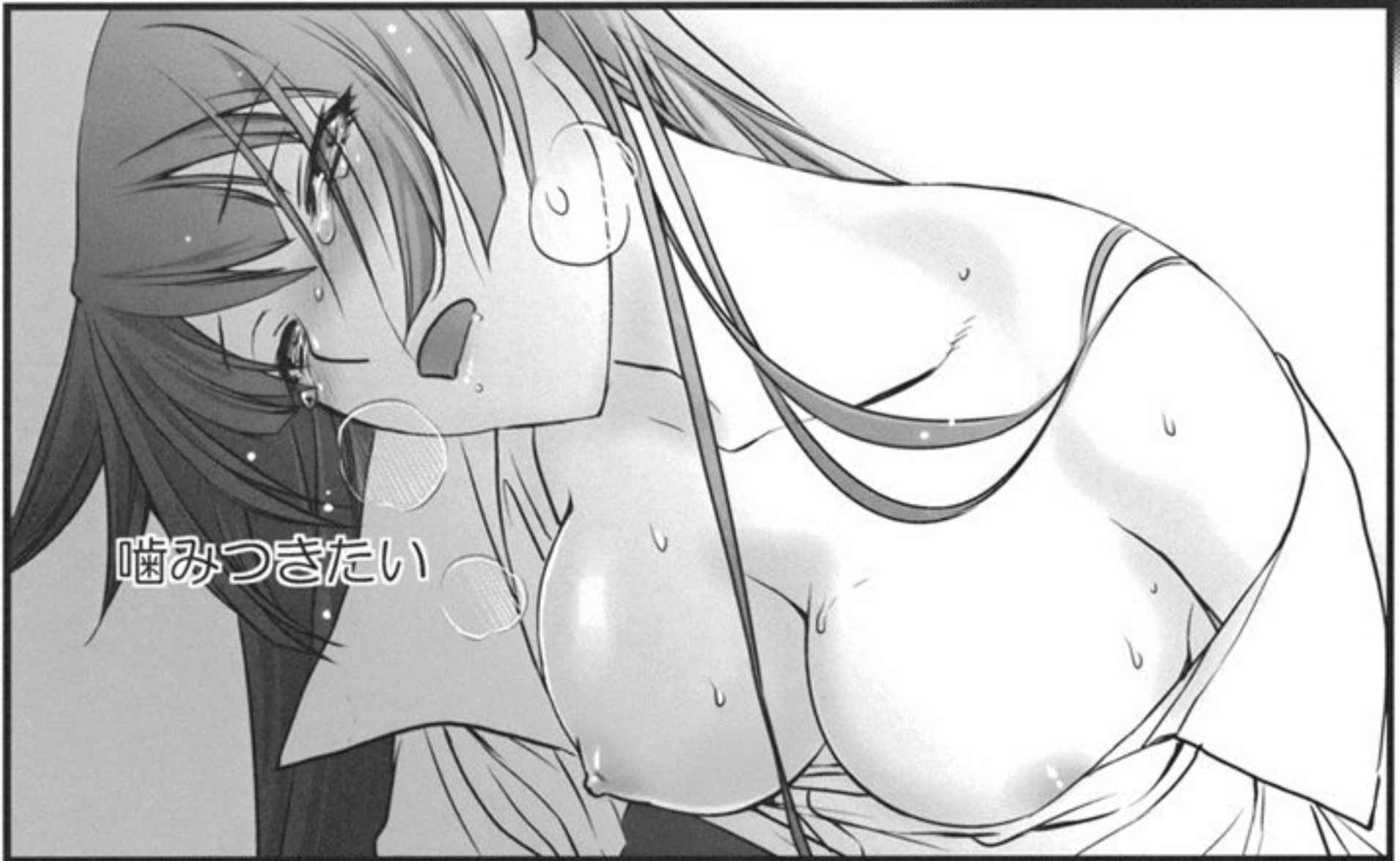
ふ……
やっぱ……り
へんた……
い……ね

戦場ヶ原

戦場ヶ原

戦場ヶ原

噛みつきたい



噛みつきたい

噛みつきたい



これは完全に
純粋に

っっ——んっ!

性欲だと
断言できる

違う——大丈夫だ



違う



なにを望み
なにを欲しているのかは
自覚している

ら……く……ん

少なくとも
人間側に立っている
実感がある

なにより
戦場ヶ原が
好きだ

好きだ

駄目っ！

だっ——だめね

……全然……
下手よ

阿良々——んんっ！！

くんっ

にゅり

くちゅ

かっかっ

かっ

かっ



戰場ヶ原っ
本気で
怖いからっ!



持ち主が
持ち主なら
服も服ね
性格が悪いわよ

誰よりもお前には
言われたくない!



忍てめえ——っ
完全に起きてるじゃねえか!

何てタイミングで
何てコトしてくれんだまっ!!

今から寝るんじゃ
だから消した

脱ぐ手間が省けた
じゃろう
感謝せいで

じゃあの
おやすみっ

ふーん

おっ
おいっ!

ふふーん

なるほど
ね

怖っ!!

ぎゅ

ズン

キキ
キキ



これが忍って子の味ね

……え?

憶えたわ

一体どこまで
わかってんだ
こいつ……

拭いたくらいじゃ
駄目なのか

——っついうかつまり
他の誰かとしたら
戦場ヶ原にはわかるのか



された——
じゃなくて？

え

まあ……
見方に
よっては……



すみません
忍としましたっ
自主で罪は
軽くなりますか!?

阿良々木くんが
戻ってきた時点で
大方の予想は
ついてたのだけど

誰かの
手助けなしでは
僕は気付けない
……と
思われてたわけか

事実
そうだった
けどさ



そういうのやめると言っても
無駄なんでしょうけど

なんでも自分に
責任があるような態度は

逆に被害者面に見えて
ムカつくわ



イかなように
我慢してたのね
なんでわかる？

ちん●にそう
書いてあるわ

私に申し訳ないとか
裏切り行為だとか
道徳的にどうか
自分のルールだとか

そのくせ
耐え切れず
一回イってしまった
——と

色々
浸っていたのね
哀れね……



エスパーか!?

阿良々木くんの
精子の味が
したから

ズギョー





どんだん
堅くなってるわよ
恥ずかしい
ちん〇ね

むしろ
この状況で
ふにやふにやの方が
恥ずかしいだろ!

性欲で人生
駄目にする男って
多いらしいわよ



お前は僕を
萎えさせたいのか?



は？ 私に
してもらっておいで
なにをぬかし
やがるのかしら

萎えるなんて
そんな権利

阿良々木くんに
あるわけないでしょう



ひっ!

すっ……吸ってる!

尿道っ!!

直接——精子
吸い出すのさかっ!

気持ちよすぎなんだから!

もう出る！

お前には我慢する気ないからな！

はあ

はあ

らめよ

ガッ

ひっ

か

は

はあ

辛そうね

はあ

つらいな

決まってるだろ！

何これ！？

イっ……

てるのに

イけないっつ





じゃあ
どこに出したいのか
言ってみなさい

きんごう



口に
出したい
です！

は

は



本当に？

本当です！

他に
選択肢は
ありません！

きんごう

きんごう

きんごう

でも私は
阿良々木くんが
私の口に出したいか
なんて
どうでもいいのよね

だよなあ！

絶対にそんな
思ってた！



僕の彼女がそんなに
優しいわけがな……



いっ！
いっ！
いっ！

ぽん

出



一滴残らず
戦場ヶ原に
!!





さすがに
マズかった
か

あのさ
戦場ヶ
むらっ!?

あ



びんびんびんびんっ!?

苦っっ

ゴッ

びんびん

ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ

やめっ
やめっ

ゴッ



自分の精子の味を
知ってるなんて
阿良々木くんは
どうしようもない変態ね

戦場ヶ原

何かしら?



調子に乗っているようだけど
阿良々木くんの射精
くらい

私のおま●こ一つで
どうにでも
なるのを
忘れない
ことね

ギョウ

ギョウ



うっ!?

締めすぎさう

ぎゅぎゅぎゅ



忘れるか!

この状況で僕の射精を
どうこうできるのは
お前のおま●こだけだよ!

でもな
戦場ヶ原

お前をおま●こを
どうこうできるのも
僕のちん●
だけなんだよ!

ぽんぽんぽん

ぽんぽんぽん
ぽんぽんぽん

ガクガク

ひんっ!?

ガク

ご褒美を
あげます

ご褒美……

ご褒美

素晴らしい言葉だ！

女子から言われたら

嬉しい言葉ランキング

上位確実の一言だ！

しかもこの状況で

言われて

嫌がる男が

いるだろうか？

います。

ここに。

なう。

悲しい……

阿良々木くん

……はい

ドクッ
ドクッ

ドクッ
ドクッ

なか
に
出していいわ

いや……

それはさすがに
まずいだろ

感極まる申し出だけ

本人がいいと
言ってるのよ

えーと

ひよつとして

安全日？

僕を今日家に呼んだのって
それで……なのか？

あ

勘違いしないでよね

どうせ阿良々木くんの
ことだから

中に出したくて出したくて
しようがないんでしょう？

おあずけが過ぎると
危険日に強引に

出され兼ねないし

別に私が阿良々木くんの
精子が欲しいわけじゃ
ないんだからね！

正しい用法で子したっ?!



でも

妊娠したら責任は
取ってもらおうわよ

え

意味がよく
わからないんだが

私が嘘を
ついているかも
しれない
ということよ



実は危険日

受精確率
99.99%

一発必中の
スナイパーに
なれるチャンスです

怖えよ!!

むしろ撃たれてるの
こっちだろ!



怖じ気づいたの
かしら?

試されてるの?!

覚悟の有無を



違っただろ

試されてるのは
覚悟じゃない



— 想いだ

— ぎゅっ

— なら





できても
できなくても
最初から
取る気でいる



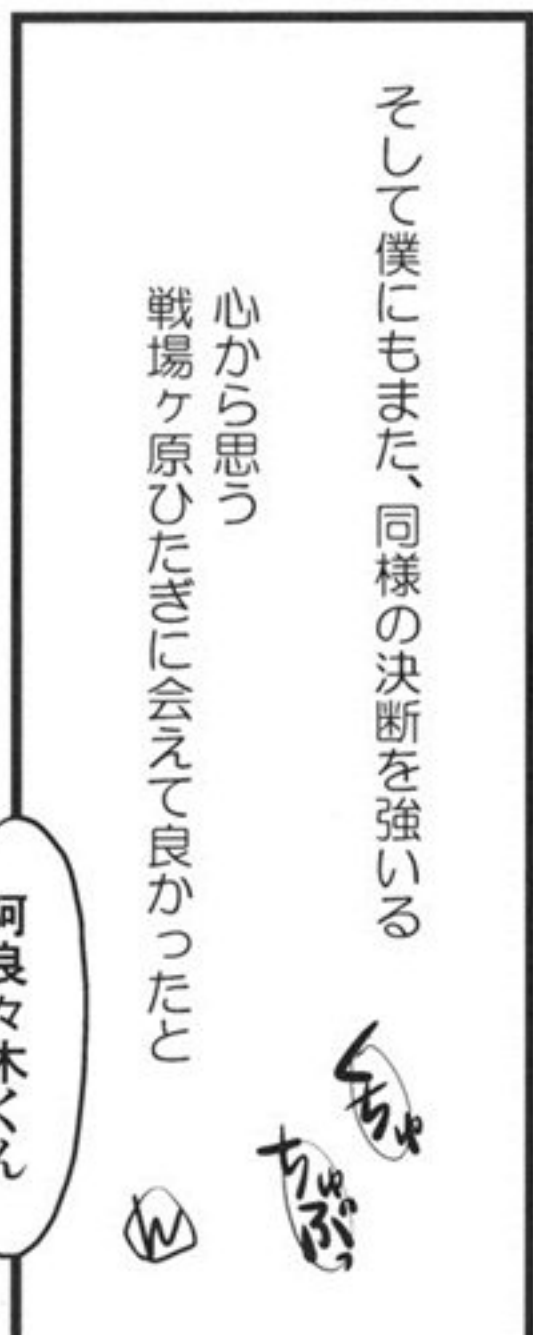
なら
阿良々木くんの
パンツとは
別れるわ



あらそう
そっけねえっ



まだ続いてたんだ
その設定



そして僕にもまた、同様の決断を強いる
心から思う
戦場ヶ原ひたぎに会えて良かったと



それは僕の全てを許諾し、拒絶する
押し付け——組み伏せ
窒息するほどの愛情

エロのかたまり
傲慢の権化

阿良々木くん

なに？

私はまた
阿良々木くんに
惚れてしまったわ



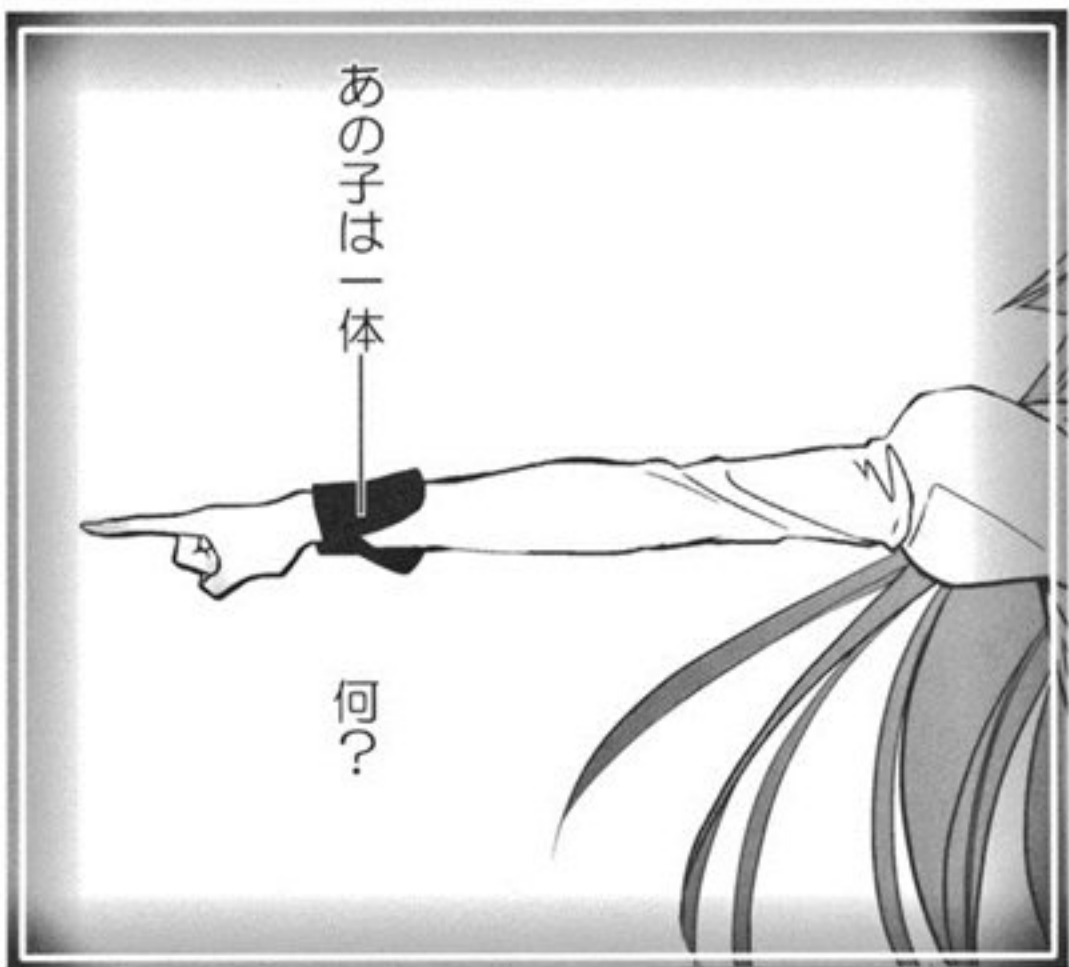




何でもないってば



あれは
気にしなくて
いいよ



あの子は一体

何?







多: キービジュアルの八九寺の良さは認めます!
前々から思っているんですが、このシリーズって外見年齢と
精神年齢が反比例している気がしません?

ま: あー

■僕はバサ姉の体で、ひたぎの性格がベストです。

ま: …

多: えっと、次の質問なんですか?

ま: 私はやっぱり忍とか八九寺とか斧乃木ちゃんくらいの
体型が萌えます。
あ、体だけだったら月火ちゃん萌え(勝手に体をイメージ)

多: 八九寺がいればいいよ!
次のしつもん!

■来年早々、偽物語TVシリーズ開始、傷物語の映画化と立て続けに
化物語関連がにぎやかです。
お二人は偽、傷、どんなところに期待してるんでしょう?

ま: 貝木!

■(´・ω´)×ビッ!!

多: 八九寺!

■八九寺、出てきたっけ?

ま: 傷は、傷は、えっと。みんな美形リメイクされちゃうの? ときどき。
(エピソードショックが抜け切らない)

多: あれってエピソードなんですか?
どうやってもイメージに合致しないんだけど!

ま: エビです。
あれがドラマツルギーとか言われたらぶっとびますw

多: それはビビるけども!
あとほら誰だっけ……忘れてしまったけど彼かもしれない。

ま: ギロさん? ギロチンカッター
親は何を思ってそんな名前を。

多: そう! 彼の可能性!
変な名前をつける親は天然です。ちなみに私の本名がそうです。

ま: 傷、は、やっぱり10歳、12歳、17歳のキス様が楽しみ!

多: あれって本当にキスショットなんですかね?
つか画風が変わりすぎだよ! 判別がしにくいよ!

ま: キス様と羽川しか出ないから、羽川じゃないならキス様。
いや、もしかするとあれもエピソードの可能性が!?

多: なんかもんぼうさんの頭の中だと、エピソードがキスショットを
凌駕するトンデモ存在として位置づけられてませんか?

ま: 出オチキャラみたいなwww

■スペースもだいぶなくなってまいりました。
今後の予定や、「このキャラで原作書きたい!」や「このキャラでエロいの
描きたい!」みたいなのがあれば言っちゃってくださいw

ま: かいk…なんでもないです

多: はちk…なんでもないです。

■、(´Д`#)/ムキ!!

多: じゃ、貝木と八九寺が出会う話で。

ま: 夢がひろがりますね! そういうの好き好き!
幽霊だから大丈夫だしね(なにが?)

■…みんな、エロイの期待してると思いますよ?
そうゆうの、出来る構成でいきましょうよ…

多: エロなんて飾りですよ!
会話が面白さが第一でしょうに!

ま: おお
かけえ

多: わかりました。世の中は需要と供給ですもんね。
ではエロいことをしたりされたりしながら、延々と関係ないことを
話し続ける貝木と八九寺の話ならOKですね。

ま: えwそれは…えええwww
や、じゃあ私は関係ない会話にも萎えないでエロ気分を
持続させられる絵を描けるように目指しますw

■みwなwぎwつwてwきwたwww

2011/11/某日

多角獣



芥川
まんぼう

Special

Interview

ひたぎヴァンプス 後編

Presented by_Bloody Okojo

20120812_Comic Market 82

Printed by_PrintWalk様

Official HP_ <http://bloodyokojo.net>

Mail_ utc@blowel.sakura.ne.jp

Twitter ID_ [bloody_okojo](https://twitter.com/bloody_okojo)

Bloody Okojo
PRESENTED BY



ひたきアソブス 後編

Bloody Okojo
PRESENTED BY

成人向

Bloody Okojo presents Vol.10